

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
 大学院生研究
 2007年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 異文化コミュニケーション 研究科 異文化コミュニケーション 専攻		
指導教員	所属・職名	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科・教授	阿部 治 印	
自然・人文の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 ・ 共同 名
研究課題名	「持続可能な開発のための教育(ESD)」における評価手法の研究		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科・異文化コミュニケーション専攻・4年	藪並 郁子 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2007 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

環境教育研究では、環境教育の手法やプログラムの内容に関わる実践的研究が行われ、環境教育の質的向上に貢献してきた。しかし、これらの研究は、環境教育が学習者に与える短期的な効果に着目したものであった。環境教育が根付いた今、環境教育の長期的効果を分かりやすい形で評価する手法の開発が求められている。本研究は、環境教育分野、教育工学分野及び評価研究分野を中心に、政策研究、パフォーマンス研究などを広くカバーするもので、これらの領域での評価手法の中で、環境教育・ESDを評価する際に適用できると考えられる複数の手法を抽出し、プログラム評価で確立されたロジックモデルを環境教育、ESDへ適用し検証・分析する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ESD (持続可能な開発のため教育)] [教育効果] [評価]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、環境教育分野、教育工学分野及び評価研究分野を中心に、政策研究、パフォーマンス研究などを結び付け、環境教育の評価活動を体系化する研究である。

環境教育分野で行われてきた実践的研究により、環境教育が質的に向上してきたが、これらの研究は環境教育が学習者に与える短期的な効果に着目したものであった。本研究では、環境教育の長期的な教育効果について、その評価のあり方を研究、提案するものである。環境教育の長期的な教育効果とは、環境教育を行うことにより、学習者の意識や行動変容を導き、そのことが、環境教育の目的である持続可能な社会の実現へ与える影響が環境教育の効果であると捉えることができる。

本研究では、教育評価や評価に関わる各学問を分野横断的にレビューすることにより、環境教育の評価の体系化を試みるものである。教育工学分野からは、教育効果についての研究蓄積を参考にした。特に、教育システムの内部での効果について、質的に評価する方法や教育評価を教育測定の立場から量的に厳密に測定する研究を参考とした。評価研究分野からは、環境教育を行政や NGO などが行なう一つの施策またはプロジェクトととらえ、政策評価の観点から環境教育政策を評価する研究が進んでいる。また評価を単に結果の提示で終わらせるのではなく、評価のプロセス自体をその施策やプロジェクトの一部に取り込む研究も行なわれている。環境教育の教育効果が社会に及ぼす効果を評価するに際し、ロジックモデルの理論をはじめ核となる評価理論を評価研究分野から見出した。政策研究からは、主に ODA 分野における実務からの評価研究が進んでいて、評価を体系的にとらえる際の評価視点、評価項目、評価内容、指標、情報収集源、目的、妥当性、プロセス適切性・効率性結果有効性を参考とした。パフォーマンス研究からは、主にビジネス・実務の分野から発展してきた研究であり、企業における社内研修の効果や、企業が社会的貢献の一部として行なう地域住民や一般市民向けの環境教育などがどの位効果があるのかを、企業やビジネスの観点から評価している。特に、コストパフォーマンスの観点から評価する仕組みが参考となる。

これらの各学問領域や各分野での評価に関する研究を統合し、環境教育の教育効果を評価する仕組みや手法を以下の通り提示した。

評価研究で確立されたロジックモデルを環境教育の評価活動に位置づける。ロジックモデルを用いることにより、実施されている環境教育がどのような目標、目的を持ち、そしてその目標、目的を実現するために行っている活動(=環境教育)の効果が何であるかを理論的に表すことが可能となる。また、環境教育を行うことにより実現されるべき目的との因果関係が明確になることで、よりの確で効率的な環境教育の実施に寄与するといえる。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

学会発表： 藪並郁子 (立教大学大学院)・阿倍治 (立教大学)

「日本における環境教育・ESDの評価手法の検討—ロジックモデルを用いた評価—
Evaluation of EE and ESD in Japan: Using a Logic Model」

日本環境教育学会第18回大会 (鳥取) 2007年5月25日 (金)～5月27日 (日)

印刷物： 藪並郁子 (立教大学大学院)・阿倍治 (立教大学)

「日本における環境教育・ESDの評価手法の検討—ロジックモデルを用いた評価—
Evaluation of EE and ESD in Japan: Using a Logic Model」

日本環境教育学会第18回大会 (鳥取) 研究発表要旨集